

あしよろ・ハードサポート通信

11月26日にカナダ・アルバータ大学の
大場真人教授を講師に、勉強会が開催されま
した。町内外を含めて50人以上が出席し、
活気ある勉強会となりました。

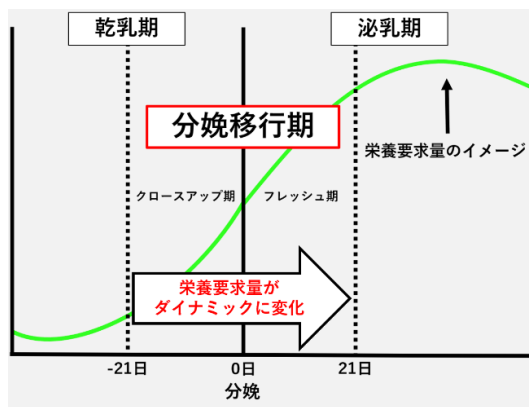
今号では上記勉強会の話の中から、分娩
移行期と飼養形態ごとの栄養管理について
取り上げます。



◆ 分娩移行期での栄養管理トピックス

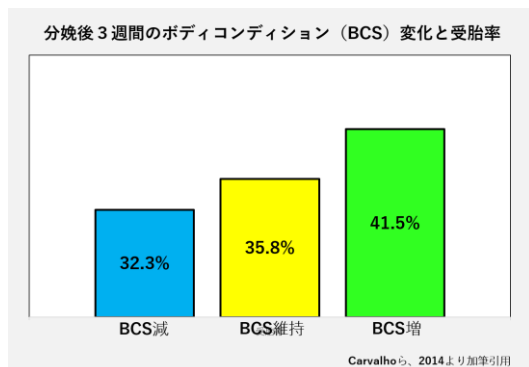
分娩移行期とは、分娩前3週間（クローズアップ期）と、分娩後3週間（フレッシュ期）を合わせた期間のことです。

クローズアップ期にエネルギーを過剰
給与すると、見た目は過肥でなくとも内臓
脂肪の蓄積が増加し、分娩後にケトシス
のリスクが高まります。クローズアップ期
の増し飼いは大切ですが、「食べさせすぎ」
には注意し、乾物摂取量の適切なコント
ロールや代謝タンパク供給量の確認が重
要になります。



フレッシュ期ではルーメン内環境のギャップを少なくするため、大幅な濃厚飼料の増給は避けたほうが望ましいです。この時期は泌乳が開始し、栄養要求量が急激に増えていきますので、牛がエサを食べ続けることが何よりも重要になります。良質な粗飼料の給与や、十分な飲水量の確保を行いましょう。

分娩移行期の管理がうまくいっているかどうかは、分娩後の乳量ではなく、ボディコンディション（BCS）に現れます。ある試験ではフレッシュ期にBCSが増加するにつれて受胎率が向上するという結果が報告されており、分娩移行期をうまく乗り越えたとその後の繁殖成績にも良い影響が期待できます。



◆ 飼料給与形態によるポイント

● TMR 給与の場合・・・「かけ算」

栄養摂取量 = TMRの栄養濃度 × 牛の摂取量

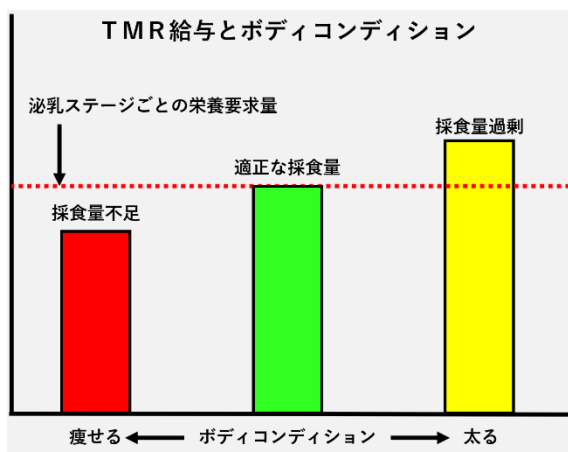
※ 1群TMRの場合、牛が太る前に乾乳できるように早く受胎させる

● 分離給与の場合・・・「たし算」

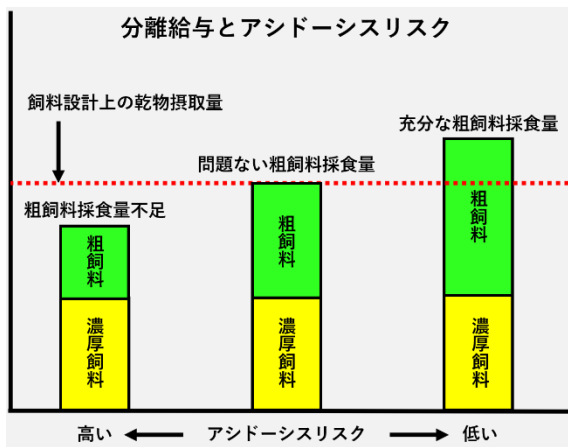
栄養摂取量 = 濃厚飼料の摂取量 + 粗飼料の摂取量

※ ルーメン発酵を安定させるため、粗飼料の摂取量をできるだけ正確に把握することが重要

TMR 給与を行う際に、1群管理では泌乳ピーク牛の栄養供給量を充足させようとする栄養設計になる場合が多くなります。そのため泌乳後期の牛ではエネルギー過剰になりやすく、受胎が遅れた牛では乾乳前に太るケースが出てきます。できるだけ早く受胎させ、可能であれば群分けを行いましょ。TMR 給与は一口ごとの栄養バランスが取れていることがメリットであり、牛群の採食量やボディコンディションが適切にコントロールできているかが重要なポイントです。



分離給与や放牧飼養の場合、濃厚飼料給与量は泌乳ステージによって個体ごとの調整がしやすいですが、牛の粗飼料摂取量を正確につかむことが難しくなります。特に泌乳ピーク牛で濃厚飼料給与量が最大の時に十分な粗飼料採食量が確保されていないと、ルーメンアシドーシスリスクが高まります。十分な粗飼料採食量を確保することや、濃厚飼料の給餌回数を増やすことによって、アシドーシスリスクを避けることができます。



勉強会後に若手の酪農家や後継者の方が集まり、大場教授を囲んでの懇親会が行われました。質問や意見が勉強会の時以上に飛び交い、とても有意義な時間でした。
(市川雷太)

